



多邦会フィロソフィ

社会福祉法人 多邦会

～ 目 次 ～

第1章 入門編

- ① フィロソフィが判断基準
- ② 善い思い善い行いを積み重ねる
- ③ 人生・仕事の結果
- ④ 考え方=良い心
- ⑤ 感謝の心が幸せの呼び水
- ⑥ まず仲間のことを知る
- ⑦ 正しければ、解決できる

第2章 ご利用者・ご家族の笑顔

- ① 「ご利用者・ご家族第一」を貫く
- ② 情熱・夢を持ち続ける
- ③ 仕事を通して人・自分を輝かせる
- ④ 現場主義に徹し、耳を傾ける
- ⑤ 創造する心を持ち続ける

第3章 地域で必要とされる施設

- ① 優良施設を目指そう
- ② 一歩先を行こう
- ③ 盛り上げ役となろう
- ④ 頼りにされる場所となろう
- ⑤ 世代の垣根を越えてつながろう

第4章 『全従業員と家族の幸福の追求』について

- ① まず、好きになる
- ② 家族への感謝の気持ちを持つ
- ③ 人のあるべき「生き方」を目指す
- ④ 幸せな人生

第5章 一人ひとりの成長の実現

- ① 常に謙虚に、素直な心で
- ② 明るい挨拶を毎日する
- ③ 達成するまで諦めない
- ④ 採算意識を持つ
- ⑤ 理念を基準に考える

第1章 入門編

① フィロソフィが判断基準

田中さんと鈴木さんは、最近小さなことで衝突しています。お互いに「自分が正しい」と信じていて相手の言うことが全く納得できません。このままでは大喧嘩に発展しそう…

人が集まってチームができると、チームの中には、必ず意見の食い違いが出てきます。意見の食い違いが出たときに、田中さんが正しいのか、鈴木さんが正しいのかという議論をしても、みんながハッピーになることはできません。

みんながハッピーになる。田中さんもハッピーになる。鈴木さんもハッピーになる。そのためには、「ハッピーになるための考え方」が必要です。

例えば、こんなふうに考えてみましょう。

毎日顔を合わせていれば、小さな軋轢や考え方の違いはつきものです。これまでの人生経験も家庭環境も、みんな違うからです。そんなとき「お前が間違っている！」と罵り合っても、問題は解決しません。

私たちは「フィロソフィが判断基準」。フィロソフィとは、「みんながハッピーになるための考え方」です。田中さんが正しい、鈴木さんが正しいではなく、フィロソフィと照らし合わせてどうすればよいか、みんなと一緒に考えましょう！

② 善い思い善い行いを積み重ねる

中田さんはいつも不満です。「自分はこんなに頑張っているのに、周りはちゃんと評価してくれない」。だから、リーダーが新しいやり方を提案しても「分かりました」とは簡単には答えません。周りがどんなに忙しくても、決められた時間に決められたことしかしません。そう決めているのです…

明るい気持ちは明るいものを引き寄せます。暗い気持ちは、暗いものを引き寄せます。これまでの人生がどうであっても、周りの評価がどうであっても、そんなことで自分の生き方をマイナスにさせてはいけません。

みんながハッピーになる。中田さんもハッピーになる。そのためには、「ハッピーになるための考え方」が必要です。

例えば、こんなふうに考えてみましょう

私たちの人生という布は、運命を縦糸、因果を横糸として織りなされていきます。これまでの運命の試練がたとえ厳しいものであったとしても、良い原因を積み重ねれば、因果の力でどのようにでも好転していきます。因果の力のほうが、長い目で見ればはるかに強いのです。

逆にマイナスのことを思えば、どれほどこの先、素晴らしい運命が用意されていたのだとしても、人生そのものを暗くしてしまいます。

私たちは「善い思いと善い行いを積み重ね」ましょう！ 人生は心に描いたとおりになり、必ず素晴らしい結果として返ってくるのです。

③ 人生・仕事の結果

山本さんは、誰もが認める「仕事ができる人」です。早くから遅くまで働かし、誰よりも勉強熱心です。最初はよく褒められて、周りにも人が集まってきていました。しかし、自分のやり方が一番だと思っているので、人の話を聞かないし、協調性もないし、少し相手の気持ちになってみる余裕もありません。だんだん人が離れて行って…

誰でも、仕事を一生懸命やればやるほど、周りが働いていないように見えてくるかもしれません。勉強すればするほど、周りが何も知らないように思えてくるかもしれません。

しかし、どんなに能力が高くても、どんなに仕事熱心でも、それだけで良い結果が生まれるわけではありません。

みんながハッピーになる山本さんもハッピーになる。そのためには、「ハッピーになるための考え方」が必要です。

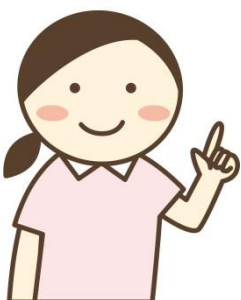
例えば、こんな風に考えてみましょう。

人生・仕事の結果は、考え方×熱意×能力。

この中で物事を成し遂げるのは、誰にも負けない努力です。しかし、そのときにきれいな心で願望を描かなければ、その成功は長続きしません。つまり、人生・ものごとを決めるのは「考え方」なのです。「考え方」などどうでもよい。まずは成功して、それから改心すればよいかという、決してそうではありません。潜在意識にきれいなものをどう浸透させてきたかが問われるのです。

私たちは、きれいな心で誰にも負けない努力を積み重ねていきましょう。

$$\text{人生・仕事の結果} = \begin{array}{c} \text{考え方} \\ \Delta 100 \sim 100 \end{array} \times \begin{array}{c} \text{熱意} \\ 0 \sim 100 \end{array} \times \begin{array}{c} \text{能力} \\ 0 \sim 100 \end{array}$$



④ 考え方＝良い心

中村さんは早速、家のトイレに貼紙をしました。

「人生・仕事の結果＝考え方×熱意×能力」。

最近生意気になった中学生の息子が言い返してきました。

「どういう考え方が正しいかなんて、その人の立場で変わるよ。」

そうではなくて「どのような立場であっても変わることのない、人としての正しい考え方」と言いたかったのですが…

「今日はみんなに喜んでもらえて、本当に良い1日だった」と思う日もあれば、「あれもこれも押し付けられて、もうやっていられない」と思う日もあるものです。

自分のことはもちろん、家族や仲間、利用者様・ご家族様の心が、プラスを向いているかマイナスを向いているか。

みんながハッピーになる。中村さんも息子さんもハッピーになる。そのためには、「ハッピーになるための考え方」が必要です。

例えば、こんなふうに考えてみましょう。

考え方には△100～+100 まであります。愛と誠と調和の心は、私たちはもともと魂のレベルで持っているものですが、心にはバイオリズムがあり、善悪の間を行ったり来たりしています。私たちは、10の良い心をお互いに常に手入れし、素晴らしい人生を実現させましょう。

考え方 良い心	① 常に前向きで、建設的であること	10
	② みんなと一緒に仕事をしようとする協調性を持っていること	10
	③ 明るいこと	10
	④ 肯定的であること	10
	⑤ 善意に満ちていること	10
	⑥ 思いやりが合って、優しいこと	10
	⑦ 真面目で、正直で、謙虚で、努力家であること	10
	⑧ 利己的ではなく、強欲ではないこと	10
	⑨ 「足る」を知っていること	10
	⑩ 感謝の心を持っていること	10
	合計	100

⑤ 感謝の心が幸せの呼び水

あらゆる業種のあらゆる人々が、もっと給料が欲しい、もっといい生活をしたい、家族に欲しいものを買ってやりたい。そういう「もっともっと」という欲望をエネルギーとして仕事をしているのに、なぜ理事長は私たちに「良い心」を求めるのだろうか、小川さんは思うのです…

私たちの業界は、利用者様やご家族様の生活を支え、喜びや悲しみの気持ちを一緒にするかけがえのない仕事ですので、他人を蹴落としたり、私利私欲だけで行動するということは皆無かもしれません。それでも、ときに不平不満が雑草のように生えてきて、「こんなにがんばっているのになんでだろう」という気持ちになる日が、誰しもあるものです。

みんながハッピーになる。中村さんもハッピーになる。そのためには、「ハッピーになるための考え方」が必要です。

例えば、こんな風に考えてみましょう。

京都の龍安寺に「吾唯足知（われただたるをしる）」と彫られたつくばいがあります。足りないものを数え始めたらきりがありませんが、それでも生きていることは奇跡であり感謝です。感謝されたら、神様だってその人を幸せにしたいと思います。

⑥ まず仲間のことを知る

利用者様を両親のように思い、働く仲間を兄弟のように思う。頭ではわかるのですが、実際には好きな人もいれば苦手な人もいます。どうすればいつもそのような気持ちになれるのか、前田さんにはまだ分かりません…

毎日顔を合わせていても、私たちはそれぞれの仕事で精一杯。案外、利用者様やご家族様、職場の仲間のことを知らずに過ごしているのではないのでしょうか。知らない人を理解することはできません。理解していない相手を、大切に思うことはありません。

みんながハッピーになる。前田さんもハッピーになる。そのためには、「ハッピーになるための考え方」が必要です。



⑦ 正しければ、解決できる

利用者様やご家族様へのサービスは自分の仕事だと思いますが、それ以外のいろいろな人との対応に、佐藤さんはすっかり疲れ果てています。それぞれの立場でいろいろなことを言われるので、話がどんどん複雑になって出口が見えません…

私たちの仕事は、いろいろな方に協力をいただきながら進めていく仕事です。しかし、ときに関わる方同士で立場が異なり、どう解決してよいか分からなくなることもあります。

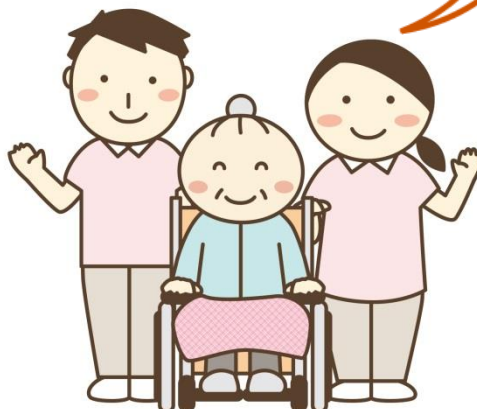
例えば、こんな風に考えてみましょう

正しさとは、自分善し、家族善し、仲間善し、社会善し、将来世代善し、地球善しの六方善を言います。利己の心で自分たちだけの視野で考えると、誰の協力も得られません。本能で判断したり意見を言ったりするのではなく、相手のためになるかどうか、自分も生き、相手も生かす解決方法を、私たちは習慣づけましょう。

みんながハッピーになる。利用者様もご家族様も、関わる方々も、そして佐藤さんもハッピーになる。そのためには、「ハッピーになるための考え方」が必要です。

わたしたちは「利用者様を両親のように思い、働く仲間を兄弟のように思う」そのように信じあえる仲間となって、智慧を持ち寄り、力を合わせて未来を創りこんでいきましょう

利用者様を両親のように思い
働く仲間を兄弟のように思う



第2章 ご利用者様・ご家族様の笑顔

① 「ご利用者・ご家族第一」を貫く

お客様のことを第一にと考えるのであれば「お客様の事を知る・知ろうとする」ことが大切で欠かせない事です。お客様の想いや人生経験（人となり）を理解する事が第一だと思います。

ただ、見ているだけでは見えてこないものもあります。知ろうと思うことで初めて見えてくるものもたくさんあります。「見よう、知ろうとしないと見えない、知ることができない」ということです。

お客様にどのようなことを行うと満足して頂けるだろうか、笑顔を見ることが出来るだろうかを一人ひとりが考え、創意工夫をすることが「ご利用者様・ご家族様第一」に繋がっていくと思います。ご家族様も同じです。自信を持ってどんな些細なことも知っていると言えるように、観察の目を養い、お客様に満足して頂けるサービスを提供できる技術を磨いていきます。

② 情熱・夢を持ち続ける

私たちの仕事は、ベターでもなくベストでもなく、パーフェクトでなければなりません。私たち職員、お客様の夢は何ですか。お客様に寄り添い、お客様の声に耳を傾けることから、お客様のご要望も一つ一つわかっていくものです。このような日々の努力は、一見、地味で単純な毎日の繰返しに思えるかもしれませんが、地味な努力の一步一步の積み重ねがあつてこそ成し遂げられるものです。

真面目に一生懸命に仕事に打ち込むことが、人格を作り上げ、人生を作り上げていきます。その人が生み出すサービスは、人々を感動させ、感銘を与えます。それが職員の達成感、充実感となり、職員的情熱へと繋がり、職員の夢も叶う瞬間となるのです。私の夢がお客様の夢を叶える事に繋がる。私たちは地味な努力の積み重ねの中で創意工夫を改良改善し続け、変身を遂げていきましょう。

③ 仕事を通して人・自分を輝かせる

私たちの事業の目的は、「全世代の幸福」を目指すことです。そのためには高い目標を持ち、決して困難な事例でも諦めることなく、仲間やご家族様と一緒にお客様の立場に立って前を向いて考えてきました。その豊かな経験値と「なぜなのか」という「科学の眼」でもって、問題を解決してきました。世の中は変化し続けています。「仕事を通じて成長する」姿勢がなければ、ステップアップした未来を実現することはできません。「こんなに大変なことは引き受けなければよかった」と思うような事でも仲間やご家族様と一緒に考え、必死の努力で創り上げることで独自の技術を確立、蓄積していきます。それは、人生の自信と宝物になり気が付いたときには、成長している自分の姿があり、周りの人の幸せに通じていくはずで

④ 現場主義に徹し、耳を傾ける

私たち、多邦会職員は、まず、第一に現場を大切にまた現場の声に耳を傾けなくてはなりません。そうすることで、困難や問題を解決の方法に導いてくれると思います。何よりもまず現場に立ち戻るということをいつも心に留めていかななくてはなりません。

そのためには、ご利用者様の体調をたえず把握し、些細なことでも気づきを増やしていきましょう。ご利用者様やご家族様の笑顔が私たちのかけがえのない財産です。笑顔で声掛けをし、反応を観察していくことで現場が安定し、明るい職場を築き上げることができると思います。

⑤ 創造する心を持ち続ける

私たちは、生涯の仕事として与えられた仕事を一生懸命行うことは大切ですが、昨日と同じことを漫然として繰り返すのではなく、日々の仕事の中に起きる新しい発見や、これでよいのかということをも毎日考え反省し、たとえわずかでも改善・改良しようとする意識が大切です。

その意識を養う第一歩は、勉強することです。例えば、上司から実体験に基づいた知恵を聞いたり、率先して研修や委員会に参加したりすることによって、知識や技術・経験を高め、常に目標や希望を描いているかどうかで、驚くほど仕事に対する意識、人生の方向性は変わっていきます。

私たちは、今の仕事をベースにして、お客様を支える最適な方法を日々開発し、挑戦し続ける心、つまり創造する心を持ち続け、自他ともに認められる領域を確立するまで、自分の知識・技術、経験を高めていきましょう。



創意工夫と創造する心を
持ち続ける

第3章 地域で必要とされる施設

① 優良施設を目指そう

地域との関わりの上で信頼を得ていくには、まず行政から信頼を得られることも大切なことです。

私たちは常に見られ、評価されている立場にあることを意識し、日々の仕事に邁進していきましょう。

日々の仕事は介護だけでなく、書類管理も大切となります。書類・記録がすべての証拠となり、ご利用者様の命を守ると同時に、私たち自身の身を守ることにもなります。また、行政主催の研修などには積極的に参加し、常に学ぶ姿勢を示していきましょう。

学んだことを現場で生かし、大阪一、さらには日本一の模範となるような優良施設となりましょう。

② 一歩先を行こう

私たちの地域には、他にもたくさんの高齢者施設があります。他施設との連携、情報共有など、横のつながりも高齢者を守っていくうえでとても大切なことです。他施設の取り組みや特徴を知り、私たちのことも知ってもらおう。私たちはこんな施設だということを外へアピールをしていかなければなりません。

他施設とは良きライバルとして互いが切磋琢磨し、レベルアップをしていかねばならない。その中で、私たちが地域の方々から選ばれる施設となっていくためには何が必要なのか。

常に他施設より一歩先へ行けるよう、私たちの売りを作り、全員で参画していきましょう。

③ 盛り上げ役となろう

地域との関わりは、高齢者のみならず、幼稚園や学校、町内会との関わりも大切にしていきます。

地域交流としては、在宅にて生活を送っておられる方々の集いの場へのお手伝い、運動会や発表会などの行事や体験実習を通じて、園児や学生との交流の機会があります。また、町内会のお祭りや文化祭などの催しや、自治会で実施されている体操や喫茶への参加があります。

地域の活性化に向けて、地域に根差し、率先して盛り上げ役となっていくでしょう。そのためには、全職員が総力をあげて取り組む姿勢・風土が必要となります。

地域の方々の多くの笑顔が見られるよう まずは私たちが楽しいと思えるものを皆で作って地域に愛される施設になりましょう。

④ 頼りにされる場所となろう

私たちが地域の一員として、地域の皆様から認めてもらえる施設となるには何が必要なのか。私たちが地域の皆様の味方であり、憩いの場でありたいと思います。

まずは、施設を地域に開放し、たくさんの方に私たちのことを知ってもらわなければなりません。

そして、いつでも気軽に足を運べる、困ったことがあれば気軽に相談でき、力とされるような施設になりましょう。

これからも地域の皆様とのふれあいを大切に、気持ちの良い笑顔と挨拶でお出迎えし、何気ない会話から笑みがあふれる温かく、頼りにされる施設を目指していきましょう。

⑤ 世代の垣根を越えてつながろう

「未来を作り出す力を培う保育」と、「高齢になってもその人らしく生きるための高齢者福祉」を担っている私たちは、老若男女、世代の垣根を越えたつながりを大切にします。

少子高齢化は日本が抱える課題であります。私たちはプロフェッショナルな保育力と介護力を発揮することで、地域福祉活動に貢献し、地域の皆様に愛され続ける法人でありましょう。

子供たちはこれからの日本を支える存在であり、高齢者の方々はこれまでの日本を支えてきた存在であり、現役世代の私たちは今の日本を支える存在であります。

「過去・現在・未来」いつの時代も、互いを助け合う心、人と人とのつながりは永久不変です。

大阪北摂の地で、敬天愛人の精神より全世代が共に幸せになる地域作りに貢献していきます。

世代の垣根を越えたつながり



第4章 『全従業員と家族の幸福の追求』について

① まず、好きになる

私たち多邦会職員は、関わった人みんなが「本当にこの法人で働けてよかった。」と言えるような、すばらしい組織を目指します。

そのためには、第1に「仕事を好きになり、誇りを持つ」こと。たとえ早朝や夜間に仕事をしていても、好きでやっていることならば疲れも苦勞も感じにくいと思うのです。

第2に「仕事を楽しむ」こと。同じ時間を過ごす中で、お互いが笑顔でいるためには、まず自分が仕事を楽しくてやり、笑顔を絶やさないと。そうすることが自然と相手の笑顔を引き出すことになります。

第3に「自分だけではなく、関わったすべての人の人生が素晴らしい」ものになればいいと思いませんか。自分のことの前には、まず周りのことを考える。一緒に働く職員を好きになり信じあうことです。信じあえる心を持った集団であれば、どんな苦勞にも耐えられます。

② 家族への感謝の心を持つ

この世は、誰もが誰かに助けられ生きている。それは家族・仕事仲間・友達あるいは、それ以外の誰かかもしれません。その中で、自らの心を「愛」と「誠」、「調和」に満ちた状態に保ち、家族・職員・利用者様すべての人を慈しみ、愛していきたい。このように、心を成長させていく必要があると思います。

そのためにはまず、「生かされていること、関わる方全員との出会いに感謝」することが大切です。

仮に事情があって、この仕事を始めることになったとしても、ご利用者様やご家族様と毎日触れ合い真摯に仕事をしていくことで、私たちは生かされていることへの感謝、家族や両親への感謝の心が自ずと育まれていくものです。

家族・仕事仲間・友達あるいは関わる方全員に感謝の心を言葉で表すことで、人生そのものを明るく拓いていきましょう。

③ 人のあるべき「生き方」を目指す

自分たちの組織を立派にしたい、自分たちの人生を良くしたいと思えば、強い願望を心に抱くことができ、誰にも負けない努力ができるのです。しかしこのときに、私心だけを考えるのか、周りのみんなの幸せを考えるのかということが問題になります。

潜在意識にどのような願望を蓄積していくのか、その質が問われるということです。

「人間として正しいものは何なのか」、「利他の心」を判断基準にして、誰にも負けない努力を続ければ、一年や二年では花開かなくても、数年後には必ずや大きく開花しているはずで。善いことを思い、善いこと行って、善い結果を生み出し、人のあるべき「生き方」を目指しましょう。

④ 幸せな人生

幸せな人生とは、仕事・給料への満足、大切な相手の幸せ、人間としての成長など物心両面の豊かな生活を送ることです。人は必要とされることにより、仕事に対してのやりがいやモチベーションを上げることができます。ですが何もしなければ、人から必要とされたり、信頼を勝ち取ることはできません。人として徳をつみ、心の豊かさを育てていくことが大切です。その為にも生涯努力をしつづける事が大切だと思います。そして、心を高めていく事で、自分の欲望だけを考えるのではなく、相手のことを思いやり、相手に感謝する、利他の心が芽生えてくるのです。利他の心を持ち続けることで、人を愛し人から愛される人生を送ることができるのです。

その積み重ねが最後に「幸せな人生だった。ありがとう」と言えるような生き方につながるはずで。



第5章 一人ひとりの成長の実現

① 常に謙虚に、素直な心で

人間は、自分の欲望を満たそうとする利己的な側面を持っています。そして何か問題が起きれば、自分よりも他人を責めたがります。人から注意・指摘されることは辛く「そんなはずはない」と自己弁護しがちです。しかし、そんな気持ちを抑えてまずは謙虚に受け入れてみましょう。そうすれば何か自分に問題があることに気付くはずです。

例えば、「多邦会の職員は暗く、言葉がけに優しさが無い」と言われて「私は違う」と反発を覚える人もいるでしょう。しかし、開所から現在まで私たち一人ひとりの言動が間違いなく「多邦会」のイメージを作り上げてきたのです。

私たちは常に謙虚に素直な心で自らを反省し、あるべき姿を目指して努力することが必要です。そのような人は他人の助言や忠告を素直に受け入れ、多くのことを吸収し成長、進歩を遂げることができるのです。

② 明るい挨拶を毎日する

まず明るい想念を持つことです。不思議なことに、人生がうまくいっている人は必ず明るい心を持っています。不平不満を言ったり、暗くうつとうしい気持ちを持ったり、ましてや人を恨んだり、妬んだりしてはいけません。そういう思いを持つこと自体が人生を暗くするからです。非常に単純なことですが、自分の未来に希望を抱いて明るく積極的に行動していくことがより良い人生のための第一条件なのです。

挨拶には相手を認めるという意味があります。人生はあらゆる場面で人との出会いがあり、その出会いに意味を見出す方法が挨拶といえます。

挨拶は大きな声で言う。自分から実践する。やる気に満ちた雰囲気醸し出す。そんな挨拶が多邦会が求める組織作りの土台になるのです。

③ 達成するまで諦めない

人は得てして変化を好まず、現状を守ろうとしがちです。しかし新しいことや困難なことに挑戦せず、現状に甘んじることはすでに退歩が始まっていると言えます。目標をたて、その達成のために具体的行動を起こし、その結果を踏まえて次の目標を設定する。常に現状よりも高みを目指し、努力する過程でこそ人は成長するのだと言えます。やりがいのある目標を設定して、仕事を面白くすることや、立てた目標を達成することが仕事へのやる気をさらに高めてくれます。

常にプラス思考「為せば成る」との信念を持ち、検討を加えながら達成するまで諦めることなく希望を持ち続け挑戦する。

そうすることによって、一人ひとりの成長が促され、ひいては組織を一つの方向に向かわせ、法人の目標にも繋がっていくのではないのでしょうか。

④ 採算意識を持つ

採算意識というのは、収入と経費と両方あり、利益を管理することで生まれてきます。

会社は利益を上げなければ成り立ちません。福祉サービスであっても、利用者様の求めに応じて、利益を追求する。それが社会に貢献していくことにも繋がります。

収入を上げることは限られた部門の人しかできませんし、収入のない部門であれば、経費を抑えることしかできません。逆に言えば、経費を抑えようとするのは、職員誰もができる経営参加ともいえます。最大限の利用を継続的に確保し、サービスに見合った報酬を得る。職務に専念し、無駄に時間を費やすことをやめ、鉛筆1本、クリップ1個に至るまで経費の無駄遣いをしない。

採算意識を持って、工夫をしながらより少ない経費で仕事をする事で、私たちが誰もが利益で組織に貢献することができるのです。

⑤ 理念を基準に考える

法人の経営というものは、筋の通った理念に沿って、道徳に沿ったものでなければ決してうまくいかず、長続きしないはずで。

理念の実現のためには、全職員がすべての人に対し「尊厳と温かさ」を持って交流し、時には自分自身を奮い立たせ、「法人・地域のために貢献する」という強い覚悟も必要です。複雑な事柄も難しく考えずにシンプルに考えて行動する。これが理念実現にもつながります。

そしてこの多邦会の理念を基準に考え、行動するからこそ、全従業員に物心両面の幸福が訪れるのです。



シンプルに考える

